

プロジェクト課題 No.4

大和町落合相川地区における 担い手法人の持続的な経営体制の構築

活動期間:令和8年度～令和10年度

対象者:農事組合法人若木の里

チーム員:◎進藤友恵、遠藤貴司、
狐塚慶子、田中孝太郎、大越那津季

1

1 課題の背景・ねらい ～対象法人の概要～

(1) 背景

- ・農事組合法人若木の里は、平成26年に「相川地区実践集団機械利用組合」を前身として法人化。
- ・現在、大和町落合相川地区にて水稻35.8 ha、大豆27.4 haを営農。
- ・構成員等は役員5名・従業員1名（うち主な労働力は3名・構成員全員60代）。



2

1 課題の背景・ねらい

(2) 現状

- ・地域内外の人材確保を見据え、対象法人では**株式会社への組織変更**を検討。
- ・将来的な営農体制の確立に向けて、**人材確保に係る知見習得**および営農管理システムを活用した**営農の効率化**が課題となっている。

(3) ねらい

【定性的目標】

- ・持続的な経営体制の構築に向けて、構成員の合意形成が図られる。
- ・経営を担う人材確保に向けた知見の習得が図られる。
- ・スマート農業技術と連携した営農管理手法の検討が図られる。

【定量的目標】

- ・経営参画を見据えた新たな人材の人数
R7：0人（現状）→ R8：0人 → R9：0人 → R10：1人

3

2 活動内容

(1) 構成員の合意形成に係る支援



- ・組織変更後の体制づくりに関する情報提供(株式会社における権限の整理に関して情報を提供)
- ・経営戦略会議を実施し、法的手続き等について専門家を含む関係機関で状況を整理・共有

(2) 経営を担う人材確保に係る知見の習得支援

- ・みやぎ産業振興機構の事業承継支援事業について情報提供
- ・人材確保に向けて、事務所の環境整備に向けた補助事業活用を提案

4

2 活動内容

(3) 営農管理システム活用手法習得支援



- ・ 営農管理システム（KSAS、XARVIO®）について、入力方法などを指導
- ・ KSASを活用した可変施肥実施に向けて、スマート農業アドバイザーを派遣し技術的支援を実施。
- ・ KSASの資材管理機能について構成員の意識の醸成を図った。

5

3 これまでの活動成果

(1) 構成員の合意形成に係る支援

- ・ 組織変更後の意思決定のあり方について役員の理解が深まった。
→ 構成員の組織変更計画への理解促進・合意形成につながった。
- ・ 関係機関同士の連携が図られ、組織変更に向けた法務・税務手続きに関する目標の共有および円滑化が図られた。

(2) 経営を担う人材確保に係る知見の習得支援

- ・ 経営継承・労働環境整備に関する意識が高まった。

(3) 営農管理システム活用手法習得支援

- ・ 法人に適する可変施肥の手法について役員の知見が深まった。
- ・ KSASとXARVIO®について、使用用途による使い分けが明確化した。
- ・ システムを活用した資材管理に対する役員の意識が醸成された。

6

4 今後の対応

(1) 構成員の合意形成に係る支援

- ・ 6月28日の通常総会において組織変更に係る計画が承認となったため、
令和9年4月1日付での確実な株式会社化を見据え、引き続き支援を行っていく。

(2) 経営を担う人材確保に係る知見の習得支援

- ・ 来年度からの人材確保に向けて、雇用に係る補助事業等の活用支援
- ・ 就業規則の再整備支援による雇用体制づくり
- ・ 将来の経営継承に向けた情報提供・人材育成の知見習得を支援

(3) 営農管理システム活用手法習得支援

- ・ 可変施肥による収量データ評価および次年度の作付計画作成に向けたフィードバック
- ・ 営農に携わる構成員に対し、システム活用に対する意識醸成・技術習得を支援